まず最初に、2022年3月期第１四半期の決算の概要についてご説明します。ご説明する資料は５枚ほどですので、その後の質疑を中心にお話しさせていただければと思います。

それでは、１ページ目からお話をさせていただきます。

2022年3月期 Q1業績サマリー

(億円)	21/3期 Q1 実績	22/3期 Q1 実績	対前年同期比 増減額	対前年同期比 伸び率
売上高	1,289	2,135	+846	+65.6%
営業利益	-129	92	+221	–
（営業利益率）	(-10.0%)	(4.3%)		
税引前利益	-125	95	+220	–
当期利益 (親会社所有者帰属)	-97	48	+145	–
換算ﾚｰﾄ1USD	107.6	109.5	+1.9	+1.7%
〃 1EUR	118.5	132.0	+13.5	+11.4%
〃 1CNY	15.2	17.0	+1.8	+11.8%

- コロナ禍から回復　自動車事業を中心に大幅増収増益
- 円安進行も追い風

Copyright NSK Ltd. All Rights Reserved.

Ｑ１の業績サマリーです。

売上高は2,135億円、営業利益は92億円、営業利益率は4.3%、以下の利益項目はご覧のとおりです。対前年で売上高は846億円の増収、営業利益は221億円の増益となりました。後ほど産業機械事業、自動車事業に分けてそれぞれ概略をご説明申し上げます。

また、コメントのとおり為替が円安方向に動いていることも追い風です。為替の影響は、売上高で約95億円、営業利益では約25億円でした。

2ページ目は、営業利益の推移をブリッジしたものです。まず大きなところ、251億円の増益は、物量とミックスです。為替と売価の増減を除いた純粋な売上高の増額は約750億円で、その増益効果は約300億円です。また、自動車、産機の事業ミックスや地域ミックスといった若干のミックスの悪化がありました。さらに棚卸資産の未実現利益等、棚卸資産の評価で25億円程度の損の影響がありました。

調達費の増減については、期初にご説明しましたとおり、鉄鋼材料を中心とした原材料の上昇を見通しに織り込んでいましたが、それがこの3カ月で、約12億円コストプッシュとして効き始めました。それに対し、外部調達費のコストダウンが10億円ほどあり、合計でマイナス2億円となりました。

売価増減では、まず売価ダウンが5億円ほどありました。それに対し、コメントでは原材料費上昇の売価転嫁としていますが、市況を受けた産機の値上げ活動の効果が約6億円ありました。それらを合わせて１億円の益出しの効果が出ました。

まだ3カ月ですので、大きな増減は見えませんが、原材料費の上昇は当初年間で60億円と見ていましたものの、足元の景況を見ると、もう一段のアップは覚悟しなければいけないと考えています。また、それを受けて売価への転嫁等も織り込み、現時点では業績の修正をするには至っていませんが、これらは当社の活動の上でポイントと言えそうです。

費用増減は、対前年で約67億円の増加となりました。一番大きいのは、人件費の50億円です。その他償却費、設備費等が７億円の増加、販売管理費が10億円ほど増加しました。そのうち物流費が約４億円増加しました。人件費の増加のうち概ね35億円は、前期は各国政府等からの助成金が入っていましたので、その差額です。残りの差額15億円は物量対応に向けた人員の投入と、通例のベースアップや定昇、賞与の増加によるものです。

為替は1ページ目で申し上げたとおり約25億円の増益で、持分法利益、その他営業費用を含めて当第1四半期の営業利益は92億円になりました。

3ページ目は産業機械事業です。

売上高は前年同期で40.6%増収の822億円。内訳として、産業機械軸受は681億円、精機製品は141億円です。セグメント利益は、対前年で72億円増益の65億円でした。

産業機械事業のサブセクターでは、足元、工作機械や半導体製造装置といった、設備投資関連が非常に活況を呈しています。半導体製造装置から始まり、その後工作機械の受注も続伸してきています。国内の投資、海外においても中国の投資が足元で火がついてきていましたし、当初中国のEMSへの設備投資が牽引してきたと見られていましたが、自動車関連も含めて幅広く設備投資熱が戻ってきていると見ています。

数表の右側に示していますのが、３カ月ごとの売上高および営業利益、営業利益率を示したグラフです。右端が足元の数字、売上高822億円、営業利益率7.9%です。ご覧のとおり、過去24カ月、シクリカルな動きや前年同期のように、コロナの影響を大きく受けて減収したことがありますが、当第1四半期の売上高822億円は、まずまず景気が回復してきたことを示しているものと見ています。

4ページ目が自動車事業になります。

売上高は、対前年同期で84.5%増収し1,217億円。内訳として、軸受が645億円、自動車部品572億円。それぞれ対前年で80%超えの回復を示すことができています。セグメント利益は17億円と、黒字に転換することができました。

ページの下段にコメントをしていますが、グローバル自動車生産台数の推移を見ると、足元の４-６月期は、当社の調べで約1,880万台と見ています。これは、前年同期で49%の増加です。このうち、当社にとって大きなお客様である日系のOEMは71%増加しており、日系がいち早くこの状況から抜け出し、成長局面に入っていることが見て取れます。これを前提としても、当社の軸受事業、自動車部品事業ともに87.8%、81%の増加ですので、市場の動きを上回る増収を記録することができています。

一方、半導体不足の影響も受けています。数表右のチャートをご覧いただくと視覚的にわかりやすくなっていると思います。足元の第１四半期の売上高は、直近の第４四半期から減収しています。ここがまさに半導体不足の影響で、自動車生産が減少したことが表れています。当第１四半期の影響として、当社が捉えているところでは、約220万台の生産減だったと見ています。期初、皆様方にお話し申し上げたときに、当第１四半期で約100万台の減産影響を受けると想定していましたので、その差分の減収が出てきたと見ています。

2022年3月期業績予想の状況

MOTION & CONTROL™ NSK

5月11日発表の業績予想および配当計画を据え置き

✓ 売上高 8,600億円　営業利益 530億円（土地譲渡益97億円含む）
為替前提（米ドル 106円 ユーロ 124円 中国元 15.7円）

✓ 配当金　25円/株（中間10円/株、期末15円/株）

● 産業機械事業

▶ 工作機械向けを中心に旺盛な需要が継続する見通し。
増員含む供給体制の整備を継続、販売機会を最大化していく。

● 自動車事業

▶ 半導体不足等による減産影響は想定以上。
減産分の回復動向を注視し、生産・在庫をコントロールしていく。

● 原材料価格、輸送費用などのコスト上昇リスクの拡大

▶ 業績予想に織り込んだ前提よりもコストアップ傾向。
さらなる売価転嫁交渉と生産性改善で吸収していく。

● 国内外におけるCOVID-19感染再拡大のリスク

▶ アジア地域の感染状況を注視。感染対策の徹底を継続。

Copyright NSK Ltd. All Rights Reserved.
5

最後のページは、足元の状況を簡単にまとめたものです。

５月11日の決算発表時点で開示しました当期の見通しは、まだ修正するところまで来ていないと見ています。また、それを前提としまして、１株当たり25円の配当も現時点では据え置きにしています。

産業機械事業、自動車事業の足元の景況、動きにつきましては、若干コメントをしていますが、前ページまでで申し上げたところに集約されます。

３つ目の原材料価格と輸送費、物流費の上昇は、今後コストプッシュの増加に効いてくると見ています。こちらは後ほど質疑の中でお答えしていきたいと思います。

それから、何といっても新型コロナの感染が、東南アジアなど足元で再拡大をしていて、このリスクが高まってきていることを感じています。当社につきましては、東南アジアではマレーシアにあるE&Eのミニチュアボールベアリングの生産拠点などが、ロックダウンの影響等を受けて若干の操業停止といった期間もありました。現時点では回復をしていますが、それらの減収減益効果もこの第１四半期に一部含まれているということを、併せてご報告いたします。

以上、３カ月の決算概要のご報告です。ありがとうございました。

（補足資料）

Copyright NSK Ltd. All Rights Reserved.

補足．事業セグメント別業績

(億円)		21/3期	22/3期			22/3期予想		
		Q1	Q1	増減額	伸び率	前半	後半	通期
合計	売上高	1,289	2,135	+846	+65.6%	4,250	4,350	8,600
	セグメント利益	-125	93	+219	–	185	255	440
	(対売上高率)	(-9.7%)	(4.4%)			(4.4%)	(5.9%)	(5.1%)
	営業利益	-129	92	+221	–	180	350	530
	(営業利益率)	(-10.0%)	(4.3%)			(4.2%)	(8.0%)	(6.2%)
産業機械事業	売上高	585	822	+237	+40.6%	1,530	1,590	3,120
	産業機械軸受	494	681	+188	+38.0%	1,270	1,320	2,590
	精機製品	91	141	+50	+54.8%	260	270	530
	セグメント利益	-7	65	+72	–	120	150	270
	(対売上高率)	(-1.2%)	(7.9%)			(7.8%)	(9.4%)	(8.7%)
自動車事業	売上高	660	1,217	+558	+84.5%	2,570	2,630	5,200
	自動車軸受	344	645	+302	+87.8%	1,350	1,400	2,750
	自動車部品	316	572	+256	+81.0%	1,220	1,230	2,450
	セグメント利益	-119	17	+136	–	50	90	140
	(対売上高率)	(-18.1%)	(1.4%)			(1.9%)	(3.4%)	(2.7%)
その他	売上高	88	152	+63	+71.7%	265	265	530
	セグメント利益	0	10	+10	–	15	15	30
	(対売上高率)	(0.1%)	(6.9%)			(5.7%)	(5.7%)	(5.7%)
売上高消去		-44	-56	-13	–	-115	-135	-250
その他の営業損益/調整額		-3	-1	+2	–	-5	95	90

Copyright NSK Ltd. All Rights Reserved.

補足．顧客地域別売上高

(億円)	21/3期 Q1	22/3期 Q1	増減額	伸び率
売上高	1,289	2,135	+846	+65.6%
日本	467	802	+335	+71.7%
海外合計	822	1,332	+511	+62.2%
(海外比率)	(63.7%)	(62.4%)		
米州	153	306	+153	+100.3%
欧州	149	277	+129	+86.4%
中国	377	441	+64	+17.0%
その他アジア	143	308	+165	+115.1%
換算レート				
1USD	107.6	109.5	+1.9	+1.7%
1EUR	118.5	132.0	+13.5	+11.4%
1CNY	15.2	17.0	+1.8	+11.8%

Copyright NSK Ltd. All Rights Reserved.

補足．財政状態

資産

負債/資本

換算レート	21/3期Q4末	22/3期Q1末
1USD	110.7	110.6
1EUR	129.8	131.6
1CNY	16.9	17.1

Copyright NSK Ltd. All Rights Reserved.

補足. 棚卸資産/有利子負債

棚 卸 資 産

有 利 子 負 債

換算レート	21/3期Q4末	22/3期Q1末
1USD	110.7	110.6
1EUR	129.8	131.6
1CNY	16.9	17.1

Copyright NSK Ltd. All Rights Reserved.

補足．設備投資額/減価償却費/研究開発費

（億円）	21/3期 通期実績	22/3期 Q1実績	22/3期 通期予想
設備投資額	373	52	510
設備投資額（リース除く）	341	46	510
減価償却費	545	139	550
減価償却費（リース除く）	500	128	505
研究開発費（制度決算ベース）	168	44	170
参考）技術関連費用	286	74	300

Copyright NSK Ltd. All Rights Reserved.

MOTION & CONTROL™
NSK

ＮＳＫの企業理念

ＮＳＫ は、MOTION & CONTROL™ を通じ、
円滑で安全な社会に貢献し、
地球環境の保全をめざすとともに、グローバルな活動によって、
国を越えた人と人の結びつきを強めます。

ＮＳＫビジョン2026

あたらしい動きをつくる。

あらたなライフスタイルを生み出し、笑顔あふれる 明日 を実現するための、
次の「動き」をつくる。

社会のニーズをいち早く発掘し、世界中の期待を超える、
誰も想像できなかった「動き」をカタチにする。

私たちが未来を動かしていく。

Copyright NSK Ltd. All Rights Reserved.